

## Abstract

基盤的防衛力構想からの脱却——ミッション志向型防衛力の追求——

高橋 杉雄（防衛研究所特別研究官付政策シミュレーション室長）

1976年防衛大綱で、その後長い間日本の防衛政策の基本概念となる基盤的防衛力構想が示された。基盤的防衛力構想は1995年防衛大綱でも踏襲されたが、2004年防衛大綱ではその「有効な部分」に限り継承するとされ、基盤的防衛力構想に「よらずして」動的防衛力を構築するとした2010年防衛大綱を経て、2013年防衛大綱では基盤的防衛力構想との関係に言及されることなく、統合機動防衛力を構築していくとの方針が示された。これら冷戦後の防衛大綱の一貫した主題は、防衛力の「実効性」の向上であったが、それは裏返せば基盤的防衛力構想からの脱却のプロセスでもあった。そのプロセスは、最終的には2013年防衛大綱で行われた「統合運用に基づく能力評価」によって完了する。本稿ではそれぞれの防衛大綱がどのように基盤的防衛力構想との関係を整理してきたのかを分析したうえで、基盤的防衛力構想との関係で「統合運用に基づく能力評価」が持つ意味を論証する。

『国際安全保障』第44巻第3号（2016年12月）54–71ページ。